

民具マンスリー

〔編集担当〕 樫村賢二 佐野賢治 鈴木通大 浜野達也 加藤友子

〔編集協力〕 大野一郎 刈田 均 森本仙介 安室 知

民具マンスリーの新時代

佐野 賢治

「民具マンスリー」(以下MM)は文字通り、月刊であり2019年度は第52巻1～12号(2019.4～2020.3)を刊行した。戦前の「アチック・マンスリー」の趣意を継ぎ、MMは1968年4月、記念すべき第1号発刊、それから営々と欠号することなく、半世紀を超える歴史を重ねてきた。発行元の日本常民文化研究所もその前身、渋谷敬三が東京・三田綱町の渋谷邸の車庫の屋根裏に二高時代の同級生と「アチックミュージアムソサエティ」を立ち上げた1921年から数え、来たる2021年で一世紀を迎える。この間、1974年10月、研究所主催の民具研究講座の参加者、多くはMM購読会員から学会設立の要望が出され翌年11月、日本民具学会が発足するなど、MMは国内における民具の収集・保存活動への啓蒙と促進、そして調査・研究の情報センター誌的役割を長年、果たしてきた。

Webサイト掲載の既刊号の目次を見ると、個別民具の調査・研究の報告・論考が多いことは頷けるが、時々民具を巡る社会状況がうかがわれる。本年度52巻6、9号(2019.9、12)、樫村賢二「鳥取県北栄町主催「明治一五〇年 民具資料のお別れ展示」と民具の「除籍(廃棄)」について(その一)、(その二)」は民具の現状に対する深刻な問題提起をしている。地方では博物館・資料館はもとより廃校した小中学校舎、また空き教室を利用して収蔵された民具の保存維持が困難とな



写真1 北栄町歴史民俗資料館蔵庫の民具の収蔵状況(2013～14年)(樫村賢二2019「鳥取県北栄町主催「明治一五〇年 民具資料のお別れ展示」と民具の「除籍(廃棄)」について(その一)」52巻6号より)

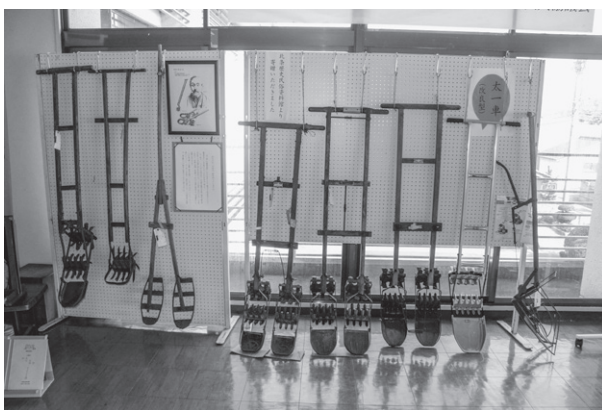


写真2 倉吉市小鴨公民館に展示される太一車。大半が北栄町から譲渡されたもの(樫村賢二2019「鳥取県北栄町主催「明治一五〇年 民具資料のお別れ展示」と民具の「除籍(廃棄)」について(その二)」52巻9号より)

り、その処置が緊急性を持つ中、その除籍、廃棄法について「お別れ展示」という具体策で世に問う姿勢を示した。除籍基準を明文化しての廃棄は全国テレビのニュース、新聞でも取り上げられ、山形県白鷹町をはじめ早速の問い合わせなど反響を呼んだ。

常民の生活資料として民具の重要性を認め、その保存・保全、調査研究の推進を使命としてきたMMにとって、こうした動向を誌面に反映させるのはむろん、有効な対策を喚起する意見を広く求めている。対照的に急激な近代化が進む中国本土では生活改善の中で旧来の用具が廃棄される一方、伝統文化の再評価の中で、民具もその調査・研究の対象になってきている。

阿盈娜「モンゴル人の食事空間とカマド——青海省と内モンゴルのモンゴル人を中心に——」52巻9号(2019.12)は、生活の変化を民具から描き、戦前の梅棹忠夫の調査を追証している。台湾では、岩井・工藤・中林編『絵引 民具の事典』が『図解 日本民具事典』(2019.2刊)として翻訳され、日本の民具研究を紹介している。松田睦彦「韓国の統合データベースの普及と博物館協力網・上・下」52巻10、12号(2020.1、3)は韓国の民俗資料の現状を報告している。MMも年々国際的な報告・論考が増え、民具の比較研究が今後ますます期待される。

民具資料の保全が厳しい状況の中、民具研究の促進と若手研究者の育成をいかに図るかが、MM編集委員会では毎回論議され、そのいくつかは編集部企画として実施に移されてきた。衣・食・住といった基本的な生活財に目を向ける、現代の日常生活に必要な道具としてスマートフォンなどを取り上げ、新たな民具として位置づけていく、世代間を繋ぐ研究を継承する、民具研究の意味を広く情報公開する、国際化を図るなどがその骨子である。先輩民具研究者へのインタビュー「シリーズ 民具と出会う」では、隅田正三・西中国山地民具を守る会会長(52巻-2、2019.5)、天野武・元文化庁主任文化財調査官(52巻-6、2019.9)が本巻では登場した。また、編集部が主催する研究会として、「絵馬研究会」「民具を語る——衣生活」が予定されていたが年度末にはコロナウイルスが蔓延し、延期のやむなきに至ってしまった。

いずれにせよ、民具が研究・文化資源として、現代社会にも即応した素材であることを「民具マンスリー」は多角的に論議する場でありたい。

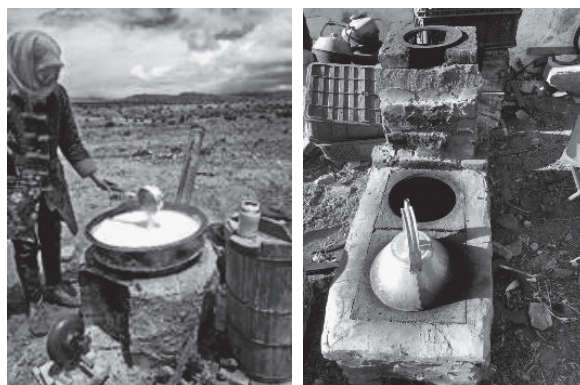


写真3 土のカマド 左：青海省海西州デリンハ市 右：内モンゴル自治区通遼市科尔沁左翼後旗オングスガチャ(阿盈娜氏撮影／2017年4月・2018年8月)(阿盈娜2019「モンゴル人の食事空間とカマド——青海省と内モンゴルのモンゴル人を中心に——」52巻9号より)

■ 2019年度の活動

『民具マンスリー』編集のための取材

○天野武氏へ「シリーズ 民具と出会う」インタビュー取材 2019年4月8日 鈴木通大・浜野達也

○神崎宣武氏へ「シリーズ 民具と出会う」インタビュー取材 2020年3月2日 樫村賢二

『民具マンスリー』編集会議日程

日 程 (通算)					
第1回(第378回)	2019年4月12日	第5回(第382回)	2019年9月9日	第9回(第386回)	2020年1月17日
第2回(第379回)	2019年5月24日	第6回(第383回)	2019年10月7日	第10回(第387回)	2020年2月21日
第3回(第380回)	2019年6月21日	第7回(第384回)	2019年11月22日	第11回(第388回)	2020年3月30日
第4回(第381回)	2019年7月22日	第8回(第385回)	2019年12月20日		